

平成27年度 上市高等学校アクションプラン 年度末評価 - 3 -		
① 重点項目	進路支援	
② 重点課題	生徒の主体性を引き出すための情報提供と進路指導	
③ 現 状	<ul style="list-style-type: none"> 進路を決めかねている生徒や、明確な進路目標を持っていても自主的な学習行動に至らない生徒が見られる。 授業、県内外進路研修、進路体験講座など多くの進路学習が行われているが、生徒は受動的であり、個々の活動を系統的に生かし、進路意識を高めていくことが苦手である。 	
④ 達成目標	①校内課題テストや外部模擬試験等の結果を精査し、生徒の学習実態と成績推移を基にして個々の進路指導に反映させる。	②生徒の進路希望の実現
	すべての課題テスト・模擬試験を対象として実施する。	進学希望生徒の第一志望校合格率 80%以上 就職希望生徒の就職内定率 100%
⑤ 方 策	<ul style="list-style-type: none"> 進路体験講座などで上級学校の講義に触れさせ、将来の姿をイメージさせる。 「県内外進路研修」や「インターンシップ」、「卒業生に聴く会」を通して上級学校や職場の雰囲気に触れ、自己理解の深化と進路・職業意識の向上を図る。 生徒の多様な進路希望に対応するため、入試動向や求人状況の研究を深め、基礎学力の定着や資格取得ができるように面接指導の充実を図る。 特別授業や補習を綿密に計画し、個々の生徒の目標達成に必要な基礎学力の向上を図る。 校内課題テスト及び外部模擬試験等のデータを精査・検討する。 	
⑥ 達成度	課題テスト等の結果が出る度に、担任が生徒にアドバイスや面接を行い、それによって生徒の学習実態を把握することができた。しかし、学年や進路指導部といった単位で生徒個々の成績を詳しく検討する機会は十分だったとはいえない。また、外部模試成績等を参考とした他校との成績比較もできなかった。	※平成28年1月14日現在 進学希望生徒の第一志望校合格率 86% 就職希望生徒の就職内定率 95%(58人中55人内定)
⑦ 具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 進路ガイダンスの実施…3年生全員と全学年の保護者を対象に実施。県内及び近県の大学、短大、専門学校の講師を招聘し、3年生の進学希望先をもとに16講座を開設。学校の特色や学習内容、入試方法などの説明を聞く機会を設けることにより進学意識を高めた。また、就職希望生徒に対しては働くことの意義や求められる職業適性などを理解するための就職講座を設定した。 進路体験講座の実施…全学年希望生徒対象に実施。延べ181名参加(昨年度98名)。7月、12月にそれぞれ3講座(経済、工学、科学、スポーツ、美術、保育)を設定した。7月の講座には、受験に役立てようと3年生の参加が多かったが、12月の講座には1・2年生合わせて24名のみ参加であった。 1学年：全員を対象として県内の上級学校や企業を見学した。週末に学習する習慣づけとして、「週末課題」にも取り組ませた。 2学年：全員を対象として、2泊3日の日程で中京方面の企業や上級学校を見学した。また、夏休み期間に希望者(26名)によるインターンシップを実施した。3月には全員対象に「卒業生に聴く会」を実施。1年次から継続して「週末課題」を与え、学習習慣の定着を図った。 3学年：就職希望生徒全員に、各自が応募を考えている企業への「応募前見学」に必ず参加するように指導した。進学希望者に対しても、夏休みを利用してオープンキャンパスへ参加させた。このほか、5月の連休中に「集中学習会」を実施した。上級難関校への進学希望者に入試問題に取り組ませることで、以後の受験勉強に対する意識付けを図った。 <p>このほか、「一日看護体験」へ1～3年生内の16名が参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての学年で放課後や長期休業期間中に希望者補習や特別授業を実施。 上級難関校への進学を希望する生徒に対しては、各学年の協力を得て、外部模試等に積極的に参加させた。 	
⑧ 評 価	C	B
⑨ 学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 就職希望の生徒が増えてきているようだが、勤労体験や職場体験も十分にさせてほしい。 健康福祉分野の生徒を中心に、介護職のやりがいや魅力を伝えてほしい。 	
⑩ 次年度以降に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 受験先決定時期の早期化など、3年間を通じた進路指導内容及びその実施時期の見直しを図る。 製造業を中心に多数の求人票をいただいたが、有名企業への就職を希望する生徒が多く、いわゆる売り手市場の優位性を生かせなかった。知名度だけでは推し量れない各事業所の良さを伝え、生徒が各自の特長を生かせる職場で仕事に就けるように、面談や事業所見学を充実させる。 校内外の進路指導関連行事の開催について、生徒への案内方法を工夫する。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した)